

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	認知症と共生する地域づくり		
現状と課題			
<p>令和2年度に実施した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」では、認知症の相談窓口の認知度が低く、「認知症サポーター養成講座」、「認知症初期集中支援チーム」を知らない人は共に半数以上となっています。</p> <p>認知症の方とその家族が住みなれた地域で生活を継続するためには、地域全体で認知症に対する理解を深める必要があります。</p>			
第8期における具体的な取組			
<ul style="list-style-type: none">・ 認知症サポーター養成事業・ 認知症講演会・ 認知症初期集中支援チームの推進・ 認知症地域支援推進員の活動推進・ 認知症ケアパスの活用			
目標（事業内容、指標等）			
	R3年	R4年	R5年
認知症サポーター養成講座受講者数	110人	120人	130人
認知症初期集中支援チーム対応件数	5件	6件	7件
目標の評価方法			
<ul style="list-style-type: none">● 時点<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 中間見直しあり<input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ● 評価の方法<ul style="list-style-type: none">・ 認知症サポーター養成講座の回数、受講者数を計上する。・ 認知症初期集中支援チーム対応件数を計上する。			

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和4年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策

後期（実績評価）

実施内容
<ul style="list-style-type: none">・ 認知症サポーター養成講座の実施 実施回数3回、受講者数62人・ 認知症初期集中支援チーム対応件数 1件
自己評価結果【△】
<ul style="list-style-type: none">・ 認知症サポーター養成講座では、中学生向けの養成講座を開催するなど、幅広い年代に対して実施することができたが、受講者数は目標値に達しなかった。・ 認知症に関する相談は包括支援センターの総合相談業務で対応しているため、初期集中支援チームで対応する事例が少なく、目標には達していない。
課題と対応策
<p>【評価時点での課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 認知症サポーターの認知度が低い。・ 認知症が疑われる方に対する市民の対応をみると、「認知症」について表向きな理解にとどまり、より詳しい特性について理解しているとは言い難い。・ 市民や関係機関に対し、初期集中支援チームの活動が浸透していない。・ 初期集中支援チームで対応すべきか、包括支援センターで対応すべきかの判断基準が明確でない。 <p>【課題に対する改善策】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 認知症の理解の普及啓発、認知症の方や家族に寄り添える、ご近所の見守りや地域活動へのつながりを目的に認知症講座（VR体験）を開催する。・ 認知症サポーター養成講座や、ふり返し講座を継続する。・ 認知症サポーター募集の旗を作成し、イベント等で再周知する。・ 初期集中支援チームの体制やチームの活動周知方法などを改善・見直しする。・ 対象者の掘り起こしを行う。